

HOYOG

教区新報

浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
〒650 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号
(本願寺神戸別院内)
電話 神戸(078)341-5949(代)
【編集】教区基推委広報部

1992. 3. 55号



第15回に参加の総代さん

センター設立答申

五百四十六人の総代研修も終わる

昨年十月から行われていた教区全寺院門徒総代表神戸別院参拝研修会の最終回が二月二十日～二十一日に開催され、十五回の研修会を終了した。十五回までの参加者総数は

は五百四十六人で、教区内全寺院からの参拝という目標には達しなかったが、例年のブロック別研修会と違って、教区内全域から総代さんが参拝しての研修会で別院の現状を多くの総代さんが目の当たりにしながら教化センター設立計画についての説明や委員との話し合いを通して計画への協力態勢づくりがはかられ、また各地の寺院運営の悩みを話し合うなど幅広い内容の研修会であった。

最終回となった十五回目には五十二人の総代さんが参加。境内見学ではモダン寺という通称になるほどと云うなずく姿や、話し合いで

「本山と別院の関係を知らない人が多い。この研修会を境に組織の活性化をはかっていきたい」と各寺での今後の活動について熱意のこもった意見も出された。懇親会では焼き餅の鍋を囲みながら、わが寺の現状を語り合う姿が多く、盃を重ねるにつれて親睦の輪は大きく広がった様子だった。



人材確保とよく言われる。競争社会において、意は常に欠くことのでき

の後は「今からでも遅くない、お寺の行事や研修会に参加するよう勤めます」と気持ちも新たに別院を後にする総代さんの姿が見られた。

◇ ◇ ◇

十五回にわたる総代参拝研修会の終了を受けて二月二十六日、教化センター常任委員会と教化センター委員会が開催された。

午前中の常任委員会では、委員会開催に向けての最後の話し合いが行われた。

午後の教化センター設立委員会では、まず教務所長が各委員の労をねぎらい、挨拶。続いて同委員会委員長の田中法蔵師が挨拶し、これまでの審議の経過をふまえて答申書提出に向けての意向を明らかにした。

引き続き行われた協議では、答申書の読み上げ、質疑応答の後、満場一致で答申書を採用した。

これを受けて田中委員長が「この答申書を最大限尊重され、速やかに教化センター設立に向けて具体化されますよう、要請いたします」と土基教務所長に手渡した。この答申書に基づいて、三月二十四日の教区会で提案・審議される予定。

(楠 万千雄)

教区たより

3・4月

9日(月)～10日(火)	豊岡教室永代教法要 和田 智浄師	豊岡教室
10日(火)～11日(水)	宮崎・兵庫両教区少年連盟交流協議会	別院
11日(水)	別院責役・総代会	3時
12日(木)	400年法要記念布教大会	豊岡教室
13日(金)	第4期寺族婦人連続学習会(第3回)	姫路中組光源寺
14日(土)～15日(日)	仏壯連盟大谷一泊研修会	大谷本廟
14日(土)～16日(月)	別院常例法座 松島法城師	1時半
16日(月)	社推協常任委員会	3時
17日(火)	常備会	10時半

19日(木)～21日(土)	別院彼岸会 岸本 有峻師	1時半
24日(火)	教区会	10時半
26日(木)	都市開教推進部会	
27日(金)	組長会	10時半
27日(金)～28日(土)	教区寺院子弟研修会	
28日(土)～31日(火)	教区仏青スキー	志賀高原
4月4日(土)	第一土曜仏教講座 山田 行雄師	1時半
7日(火)	別院仏婦総会	10時半
	別院仏婦定例法座 本川英暁師	1時半

神姫組で連研修了式 四十五人に修了証

去る二月二十一日、神姫組では教務所より赤松法雄師を迎え、第七期連研の修了式を行った。

式は讃仏偈の勤行に始まり、竹中組長の挨拶に続いて修了証授与式に移り、修了者ひとりひとりに赤松師から修了証が手渡された。

この後、「無事修了には本人の努力のほかに、講座に出席できるように陰から支えてくださった家族の力がたの協力を忘れてはならないだろう。今後はより一層開法に励み、念仏者としての自覚を深め精進し、さらには中央教修を受けて、門術推進員へと大きく育ってくだささい」と赤松師から記念講話があり、日程を終了した。

第七期連研は五十名の受講生で始まったが、この日終了証を手にしたのは四十五名であった。今回は夫婦での受講が四組、四十代から五十代半ばの女性が多かったことが特筆される。

また、研修開催のたび、受付・会場案内・話し合い活動などに専光寺、覚正寺の門徒推進員のかたの奉仕



常德寺での修了式

赤穂北組でも六十七人が修了

寒さも一段と厳しい二月二十三日の午後一時半から、浄蓮寺にて赤穂北組第七期連研修了式が挙行された。

教区から土基謙教務所長・竹内専従員の出席をいただき、組長・副組長・法輪会有志の参加のもと、六十七名の修了生の旅立ちをお祝いした。

真宗宗歌、正信偈のお勤め、組長から二年間の研修の労をねぎらう挨拶と今後の活動

の活動を期待する祝辞があり、土基教務所長から二十ヶ寺の修了生の代表に修了証が手渡された。

続いて教務所長の講話を全員が拝聴した。概要は次の通り。

連研を修了したことは、宗門が取り組んでいる基幹運動に積極的に関わり、わが事として推進する仲間入りをしたことであって、決してひとつの肩書きや資格

を得たことではなく、全員伝道・全員開法を僧俗ともに推進することに加わったということ。

古老の教えから、船に例えて棧橋に綱を結んでいては舟は前進しないように、ひとりだけではなく、ともに手を携えて運動を推進すること。善導大師のおしえから、自らの課題としての信心の問題、念仏の意義を話され、廻向という言葉の英訳のむつかしさを原語を引用して述べられた。

教務所長からの励ましの言葉、意味深い講話を胸に、修了者全員が決意を新たにすることができた。

最後に恩徳讃を唱和して、参加者全員が本堂前に集合して記念撮影を行い、各寺の修了者のグループ化と横の連帯を再確認して解散した。

(赤穂北組浄蓮寺・増井浄見)

生前のご苦勞を偲び 謹んで敬弔の意を表します。(敬称略)

出石組 真光寺住職	秋山 大秀	2月23日	73才
新宮組 西勝寺前任住職	富井 哲念	2月28日	89才
「報勝院釋哲念」	小倉 烟秋子	2月28日	84才
朝来組 円了寺前坊守			
「慈光院釋尼妙秋」			

いのちの尊厳を訴える

岡山理科大学教授 浄原法蔵師
岡山浄光寺住職 浄原法蔵師
教区青僧会で公開講演

まなければならぬ。お念仏は腹の中のどろどろとした物に突き当たる鋭いメスだと受け止めている。外に出てくる表現が科学の進歩などいろいろな問題により様々になり、"いのち"というものの根本の理解が薄いためにどう対応しているのかわからないというのがある。科学的な側面を捉えておかないと自身にも納得がいかないし対応ができない。

知的情緒を持つことをさす、科学変化によって全ては無秩序化に向かうという宇宙レベルから見ると人間が出来てきたことも崩れていく過程である。ビッグバンによって宇宙が出来、光のエネルギーがクオークという物質を生み、物質は光を求めて引き合うという働きをもっている。その働きの中に私というものがある。科学結合によって存在しているのが"いのち"だろうと思う。

「進化」とはその時の環境条件に最も適したように残っていく過程であり、消えゆくということ。生き残り残ることであり、それは退化ということと同一でもある。

いのちの尊厳を考えると人間だけが若いまま環境を整えて生き延びていく人間だけが特別だと言えるだろう。今の環境条件では生き物は単種では生きていけない。一つ一つの違いを尊重、違いをそのまま認められる私になれるか。生き物の弱さ、不安定さが生きることを示している。弱さの中に存在観を見つめてゆく生き方が、いのちの尊厳を認める「立体的な生命観」に生きることであろう。

去る二月二十一日、教区青年僧侶の会(増岡康信会長)公開講演会が別院で開催され、岡山理科大学教授・浄原法蔵師(岡山南組浄光寺住職)が「科学と宗教―いのちの尊厳―」というテーマで講演した。その要旨をご紹介します。

大学では生命工学を研究しており、私達が共存している微生物を扱って、生きるといふことがどのようになされているかの研究や遺伝子の情報解読などの分析をしている。

私が一人の人間としていのちを終わっていくときに建前だけで領いて死んでいくのか。そこが基本だろう。そこに鋭い科学性を持ち込

まなければならない。お念仏は腹の中のどろどろとした物に突き当たる鋭いメスだと受け止めている。外に出てくる表現が科学の進歩などいろいろな問題により様々になり、"いのち"というものの根本の理解が薄いためにどう対応しているのかわからないというのがある。科学的な側面を捉えておかないと自身にも納得がいかないし対応ができない。

知的情緒を持つことをさす、科学変化によって全ては無秩序化に向かうという宇宙レベルから見ると人間が出来てきたことも崩れていく過程である。ビッグバンによって宇宙が出来、光のエネルギーがクオークという物質を生み、物質は光を求めて引き合うという働きをもっている。その働きの中に私というものがある。科学結合によって存在しているのが"いのち"だろうと思う。

開口一番「お寺での不足を子供に言ったことがない西光寺前任職、村上義憲師夫妻に任職と坊守のあり方を、家族ぐるみの付き合いの中で学んだ。四人の子供

宍粟組西願寺

佐々木 大観さん

よかった」と寺を継ぐまでは大阪の広告関係の会社に勤めていた佐々木住職は大阪では生活の中心、支えがなかった。今、仏教が中心にあることくらい強い心強いものはない」と振り返る。



自由自在のベンチャー

「息子の友達がお経にアナンとあるのを見て喜んだこともあった」とも。保護司である佐々木住職は青少年問題についての講演に単車で行き、ツナギのまま話をしたこともある。現在の単車は、ヤマハベンチャーロイヤル(千三百cc)という国内に数台しかない貴重なもの。「ナナハン」(七百五十cc)の約二倍ある四百三十キロの重さの単車に乗るために、腕立て伏せもした。「任職も人間だからどんな趣味を持っていてもいいと思う。例えば、目標を持って学校で荒れた少年たちに、デカイ単車に乗るにはどうしたらいいかなど、目標を与え打ち解けて話ができることなど、単車に乗っていることが役に立ってきた。最近、冬はあんまり乗りませんが」と笑う。

さんが皆、お寺のことを考えているのはすばらしいと思う」と語った。「小さい寺で生活苦と気づかいはないが

二人の息子さんに、動物の面倒を見ることで生死を見せるために飼いだめたペルシャ猫「ラゴラ」と「アナン」の子孫が今では十一匹に。「もったいない名前

坊守の成美さんは「単車で布教に出かけたりするときには必ず見送ります。死の縁は車で出かけても同じですけど、ドッドドッという音が聞こえてきたら、お父さん帰ってこれたね、と息子と安心していきます」と笑顔で語ってくれた。(広報部)

HOPE

◆1月31日〜2月1日 第十一回教区全寺院総代表別院参拝研修を別院で。三十四人が参加「センター設立後、一泊研修又は奉仕団の参拝を実施しては」という意見も◆1日 第一土曜仏教講座を別院で。講師は寺川幽芳師(龍谷大学助教)テーマは「人生の旅」

◆2日 仏壮常任委員会・理事会を別院で。今年度の行事反省と三月十四日〜十五日に京都の大谷本願寺開催の一泊研修会などについて協議◆3日 連研検討部会を別院で。二十七日に別院で行われる「連研のための研究会」についての打ち合わせ◆4日 研修委員会を別院で◆4日 教化センター三役会◆4日 5日 第十二回教区全寺院総代表別院参拝研修を別院で。四十六人が参加「将来の運営・管理をどうするか心配する」という感想も◆5日 仏青指導員会議を本山で。担当者出席◆岡山北組住職寺族同朋

講座を長泉寺で。講師は川端正道師(岡山北組報恩寺)◆6日 別院・教務所職員会議◆6日 7日 第十三回教区全寺院総代表別院参拝研修を別院で。四十六人が参加「真宗の将来に向かつての危機感を住職さんをもっと認識して、更なる研鑽を積んでいきたい」◆7日 別院仏婦役員会相談会◆別院仏婦定例法座。講師は藤岡貞賢師◆教化センター三役会◆少年連盟役員会◆如月忌法要を本山で。教区内からも参拝◆8日 阪神東組総代表研修に教務所長出席◆11日 神姫組連研修式に赤松賛事出席◆12日 14日 寺族婦人開法旅行。さつまかくれ念仏をたずねて、一行二十五人。念

仏禁制の「血吹き涙あふるる」弾圧の中で、お同行が永い年月を暗い洞窟(ガマ)の中で念仏を称え、一念を貫き通してきた歴史と数々の洞窟に逢い、参加者は感激と感謝と慚愧の思いで一杯でした。安楽寺の佐々木住職、鹿兒島別院の朱雀輪番等々：たくさんのご縁を喜ばせていただきました。教務所に届いた札状には「涙と笑いの開法旅行になりました。皆様ご苦労さまでした。(辻岡武子さん)」「感動の旅、思い出の旅となりました。(杉山美保子さん)」「内容の深い良い旅行ができて、お世話になりました。(加藤照子さん)」「次回を楽しみにしています。(山田照美さん)」と喜びの声◆14日

連研の場で同朋運動

◆同兵宗連役員学習会を兵庫人権会館で。「部落解放基本法をめぐる現在の状況について」と題して領家護師が講義。行政は被差別部落を対策事業の対象としか見ていないのか。行政は今、部落差別がどうあるのか、どう部落の人が生きるのかの認識がない。また、運動は行政を攻撃することに終わっていないかなど、昨年の十二月十一日に出された「地域改善対策協議会の最終意見書」をふまえての講義でした◆14日 16日 別院常例法座。講師は堀孝文師(揖斐東組西法寺)◆15日 岡山北組寺族婦人同朋講座を浄円寺で。講師は川端正道師◆17日 神姫・神崎組寺族婦人合同研修に教務所長出席◆高砂組住職寺族同朋講座を光照寺で。講師は西脇正文師(揖斐西組超念寺)◆赤穂北組住職寺族同朋講座を長専寺で。講師は近藤龍樹師(古古川組普光寺)◆18日 教化センター総務部会を別院で。◆14日 19日 第十四回教区全寺院総代表別院参拝研修を別院で。

三十六人が参加。感想の中には懇親会についての意見も◆19日 教化組連絡協議会を別院で◆20日 基推委企画推進室会議を別院で。本年度反省と来年度活動計画について◆20日 21日 第十五回教区全寺院総代表別院参拝研修を別院で。五十二人が参加「研修会に参加してくれと言われ嫌々ながら出席しましたが、参加させて貰ってよかった」という気持ちでいっぱいです」という感想に、職員も「ああ良かった。十五回を無事終了しました◆21日 青年僧侶の会公開講演会を別院で。「日進月歩の

人が別院同参◆24日 神戸西組住職寺族同朋講座を長善寺で。講師は井上英樹師(姫路中組西徳寺)◆25日 仏婦連盟常任委員会を別院で◆近同推総会を京都・洛北で。教務所長・担当者出席◆26日 教化センター常任委員会・教化センター委員会を別院で。「兵庫教区教化センター設立・本願寺神戸別院改築・総合計画答申書」について審議◆27日 連研のための研究会を別院で。午前中は連研講師用ビデオ「話し合い法座」を観賞しての協議会。午後には久堀弘義師の講義「研修読本使用について」(特に習俗の問題について)の後、各組の連研開催状況をふまえての協議会。第七期連研報告書を見て「連研の場で同朋運動に取り組まれているのか」という感想も◆基推委常任委員会を別院で。本年度活動の反省と、来年度活動計画について◆28日 都市開教公開講演会を北撰組正光寺で。講師は足利孝之師(阪神東組安養寺)テーマは「なぜ、宗教が必要なのか」

涙と笑いの開法旅行



涙と笑いの開法旅行

科学をただ眺めているだけでなく、伝統教団の私達も積極的に学ぶ姿勢を」と会長◆22日 近畿ブロック寺族婦人研修会を津村別院で◆23日 赤穂北組連研修式に教務所長出席◆大阪教区川中北組教岸寺から三十



浄原法蔵師

要なのか